

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000903		
法人名	(有) Human-Hope		
事業所名	グループホーム 自由の風		
所在地	小樽市奥沢2丁目10番18号 (電話) 0134-24-2275		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算7.3人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	水光熱費 27,000円 暖房費(11月~3月)7,000円
敷金	有(35,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	250円	昼食 400円
	夕食	500円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,250円		

### (4) 利用者の概要(12月19日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	3名	要介護2	3名
要介護3	6名	要介護4	6名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 80歳	最低 73歳	最高 95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院・おきつ歯科・朝里病院・野口整形・港南クリニック
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念にある《笑顔で対応》が日々実践され、明るく落ち着いて穏やかな暮らしが継続されている。管理者と職員は、良く吟味された介護計画に添って支援をしている。運営法人は安定した基盤を持ち、適切なサービスを提供する職員の育成をするため、毎月研修を重ねている。献立の作成、食材の購入などを専門業者に委託し、職員がゆとりをもって利用者に係わるケアをしている。職員の性別や、年齢などバランスが良い構成で、利用者も職員間も良好な関係が保たれている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で取り組みを期待された項目について、早速地域包括支援センター職員の運営推進会議出席を依頼し、参加が可能となった。しかし、災害対策の項目では地域の協力を呼びかけているが、具体化までに至っていない状況である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニット毎に職員一人ひとり自己評価項目について、手分けして記載したものを持ち寄り、全体を検討して、管理者が中心となってまとめられている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では利用者と昼食をともにし、ホームの理解を深めていただくようにしている。課題に向けて意見交換し、地域との交流など良好な関係作りがなされている。管理者は地域に居住し、町内会役員や住民と親しい関係が築かれている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの様子は詳細に家族に知らせている。問い合わせや意見など、気軽に話せる関係作りができて、面会時などに話し合いをしている。玄関に苦情箱を設置しているが利用はない状況である。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入している。また、管理者は地域住民でもあり、関係は良好である。町内会の行事に出来る限り出席するようにして、交流を図っている。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは、地域密着型の内容を吟味した理念を職員とともに作り上げ、ホーム内の見やすい場所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は名札の裏面に理念を記載し、利用者の日常生活に活かしたケアを心掛け実践している。また、会議などで確認を積み重ねて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして町内会加入はもちろん、地域密着を理念に掲げ、日頃から交流に努めている。町内会の行事に積極的に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に職員一人ひとり評価項目について、手分けして記載し、さらに全体で検討して作成した。また、前回の取り組みについて十分な話し合いを重ね、改善に取り組んでいる。		

小樽市 グループホーム 自由の風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者と昼食をともにし、ホームの理解を深めていただくようにしている。課題に向けて意見交換をし、地域との交流など良好な関係作りがされている。管理者は町内に居住しているので、親しい関係が築かれている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1回の市主催の管理者会議と日常的な連携で、指導をいただきながら、信頼されるホーム作りをしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に写真など掲載して、利用者の笑顔の表情が分かる「便り」を発行し、家族に様子を知らせている。また、金銭状況や健康面についても報告している。さらに、面会時にも話し合い、緊急時はすぐに連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置したり、来訪時には気軽に話せる雰囲気作りに配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交替はできるだけ最小限にとどめ、馴染みの職員がケアに当たっている。止むを得ない場合は、利用者への影響がないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で毎月、テーマを決めて職員研修を開催している。また、外部の研修に参加した場合は報告をし、共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列ホームが近隣にあり、利用者、職員、家族を含めた合同の行事を実施し、交流を図って全員の楽しみとなっている。また系列ホームの管理者会議を定期的開催し、サービスの向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族に見学していただき、雰囲気になれるよう配慮し、始めは家族の訪問など多くして、安心の居場所になるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として、敬意をもって対応し、共に支え合いの精神でケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に利用者の生活歴など聞き取り、また一人ひとりの暮らし方の希望などを把握し、利用者本位に検討した取り組みをしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で、介護計画と連動した取り組みをし、記録している。職員は毎月の会議のなかで、意見交換を十分にしている。介護計画について家族や医療関係者の意見を取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎に見直し、利用者一人ひとりの状態に合わせた内容としている。現状理解は職員間で共通とし、家族の了解をいただきながら、新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の要望でかかりつけ医の受診を支援し、ホームの車両で送迎など支援している。また、美容室の利用など柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は往診による医療受診者が多いが、利用者が以前からのかかりつけ医の受診を優先し、一人ひとりについて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、重度化の指針を契約時に家族と取り交わし、方針を共有しながら、話し合いをして支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を大切にして、プライバシーに配慮したケアをしている。また、研修の課題として取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして大まかな一日の流れがあるが、利用者の個性を優先し、一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	開放された台所で、職員が準備した食事を利用者が配膳など一緒にしていただきながら、職員は、利用者の中に着席して食事をしている。後片付けなどもともにしていただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全を配慮した浴室で、利用者の状況に合わせた入浴を、週2回を目途に支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の過去の経験を活かした趣味の将棋や編物、また家事の一部、さらにホーム内での楽しみごとなど、一人ひとりが充実した生活を送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの隣にあるスーパーマーケットに日常的に外出し、買物などを行っている。ホームでは、外出可能な時期は、出来るだけ多く屋外行事を企画し、利用者の楽しみとなっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は常時見守りを徹底し、利用者の動向を細かく把握することで、玄関の施錠をしないで自由な暮らしが出来るよう心がけている。		

小樽市 グループホーム 自由の風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と連携をとり避難訓練を実施している。また、地域の協力がいただけるように話はしているが、連絡方法などの具体化はされていません。職員は研修の課題として取り組んでいる。	○	地域住民の避難訓練への参加など連携強化と、災害の協力体制について具体化した取り組みを今後期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者への委託で栄養面や水分量など、安心した食事を提供している。また、摂取量などを記録し、利用者一人ひとりの状態を把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は、グループホームとして吟味して建築され、使いやすい間取りとなっており、利用者は落ち着いて生活している。トイレでは、スリッパに交換することになっているが、安全面から、スリッパ使用は自由にして強制はしていない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者や家族と相談して仏壇や写真を持ち込んだり、使い慣れた備品を用意し、安心して暮らせる自分の部屋になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。